

戰後台灣的大學日語教育 60 年之軌跡

賴錦雀

東吳大學日本語文學系教授

摘要

本論文屬於戰後台灣日語教育史的研究論述。文中先探討台灣的大學日語教育設置動向、教育活動變遷、研究活動發展、對相關學會的貢獻、人才培育、危機等狀況之後，提出活用科學技術、以日語為基礎的跨學科教育、兼顧在地化與國際化的教育內容、跨學科教育的強化、跨境教育與持續教育思維的重要性等未來課題。戰後，台灣的大學於 1963 年開始設立日語學系。60 年來，共設立了 55 個日語學系，然而截至 2025 年 4 月止只剩下 39 個學系。雖然台灣面臨與日本斷交、與高中的持續教育、少子化、地區差異、語言政策、人工智能興起等危機，但因為日語與台灣在歷史、地理、文化上都有著密切的聯繫，因此依然是台灣重要的外語之一，我們應該繼續密切地關注日語教育的發展。

關鍵詞：台灣、大學日語教育、歷史研究、危機、學系的消長

受理日期：2025 年 03 月 10 日

通過日期：2025 年 06 月 06 日

DOI：10.29758/TWRYJYSB.202506_(44).0007

The 60-Year Development of Japanese Language Education at Taiwanese Universities in the Postwar Era

Lai, Jiin-chiueh

Professor, Soochow University, Taiwan

Abstract

This paper is a research discussion on the history of Japanese language education in Taiwan. The article first discusses the trends in the establishment of Japanese language education in Taiwan's universities, changes in educational activities, development of research activities, contributions to related societies, talent cultivation, crises, and then proposes future topics such as the use of science and technology, interdisciplinary education based on Japanese, educational content that takes into account both localization and globalization, the strengthening of interdisciplinary education, and the importance of cross-border education and continuing education thinking. After the war, Taiwan began to establish Japanese language departments in 1963. Over the past 60 years, 55 Japanese language departments have been established, but as of April 2025, only 39 remain. Although Taiwan faces crises such as the severance of diplomatic relations with Japan, continuing Japanese education in universities and high schools, declining birthrate, regional differences, language policy, and the rise of AI, Japanese remains one of Taiwan's important foreign languages because of its close historical with Taiwan.

Keywords: history, Japanese language education at university, Taiwan, crisis, the rise and fall of Japanese language education in universities.

戦後台湾の大学における日本語教育 60 年の軌跡

頼錦雀

東呉大学日本語文学系教授

要旨

本論文は戦後台湾における日本語教育の史的研究の一環である。台湾の大学日本語教育の推移、教育活動の変化、研究活動の発展、関係学会への貢献、人材育成、危機などを述べた後、今後の課題として科学技術の利活用、日本語ベースの学際的教育、本土化と国際化の両立の教育内容、学際的教育の強化、越境教育と継続教育の心構えの重要性を提起する。戦後台湾における主専攻の大学日本語教育は 1963 年に扉を開いた。60 年間に 55 の日本語学科が設置されたが、2025 年 4 月現在では 39 学科しか残っていない。台日国交断絶、高校との継続教育、少子化、地域差、言語政策、AI 登場などの危機に直面してきたが、歴史的にも地理的にも文化的にも台湾と密接な関係にあるので、日本語は台湾にとって重要な外国語の一つである。今後とも日本語教育のゆくえを大事にすべきである。

キーワード：台湾、大学日本語教育、史的研究、危機、学科の消長

戦後台湾の大学における日本語教育 60 年の軌跡

頼錦雀

東呉大学日本語文学系教授

1. はじめに

本論文は台湾日本語教育史についての論述である。130 年の歴史を持つ台湾の日本語教育はかつて、侵略的時期（1895-1945 年）、禁止的時期（1945-1963 年）、経済的時期（1963-1988 年）、文化的時期（1988~）のように大別された¹。戦後の大学日本語教育に絞って見た場合、主専攻の日本語教育の扉が開られたのは 1963 年の中国文化学院（中国文化大学の前身）東方語文学科日本語組（日本語文学系前身）の設置であった。文化的時期初期の 1990 年代になると、グローバルな学び、国際的な視野、国際的な素養、多文化教育の理念などが提出され、特に 21 世紀に入って以来、国際理解と国際移動力の重要性が唱えられる²ようになったので、高等教育機関だけではなく、中等教育機関、初等教育機関における日本語教育もますます重視されるようになった。そして 2019 年から実施された小学校から高校までの 12 年間の国家基礎教育課程の概要（十二年國民基本教育課程綱要總綱）では日本語を含む外国語教育が重視されている。大学以前の段階における日本語教育は継続日本語教育の視点から考えてみれば、考慮に入れるべき大事な要素である。また、台日間の経済と貿易関係が活発で、民間交流も頻繁に行われているので、日本語教育は、一般的な日本語だけでなく、ビジネス日本語、工業日本語、金融日本語、貿易日本語、観光日本語などの専門日本語も含

¹ 頼錦雀(2017)「台湾における日本語教育の歩みと今日的課題」による。なお、蔡茂豊（2003）『台湾日本語教育の史的研究（下）』は戦後台湾の日本語教育を過渡期（1945-1947）、暗黒期（1947-1963）、転換期（1963-1980）、開放期（1980-1989）、飛躍期（1989-1996）、多岐期（1996以降）のように分けた。

² 教育部では 2016 年に「提升青年學生全球移動力（学生の国際移動能力の向上）」が公布され、「溝通力(コミュニケーション能力)、適應力（適応力）、專業力（専門能力）、實踐力（実践能力）の重要性が提示された。

まれており、学際的な視点や発想が求められている。このような台日交流や教育内容は、大学日本語教育の教材や教授法に影響を与えるのは言うまでもないことである。

1963年8月に台湾の大学で日本語学科が設置されて以来、60年の歳月が経った。ここ60年間、教育機関やカリキュラム、教育環境がいろいろ変わった。上述したことのほかに、2010年以降のAIの発達、2020～2023年の新型コロナウイルス感染症の流行によるオンライン授業の実施、2023年の言語生成AIの登場などによって、教材の提示法、教授法、教育活動が大きく変わっている。日本語教師の研究内容や研究活動の中身も20世紀のそれと異なるようになった。本発表では、台湾の大学日本語教育60年における教育機関の推移、教育内容と研究活動の変化を振り返り、卒業生の社会奉仕、日本語教育の危機とゆくえについて私見を述べる。

2. 大学日本語教育の推移

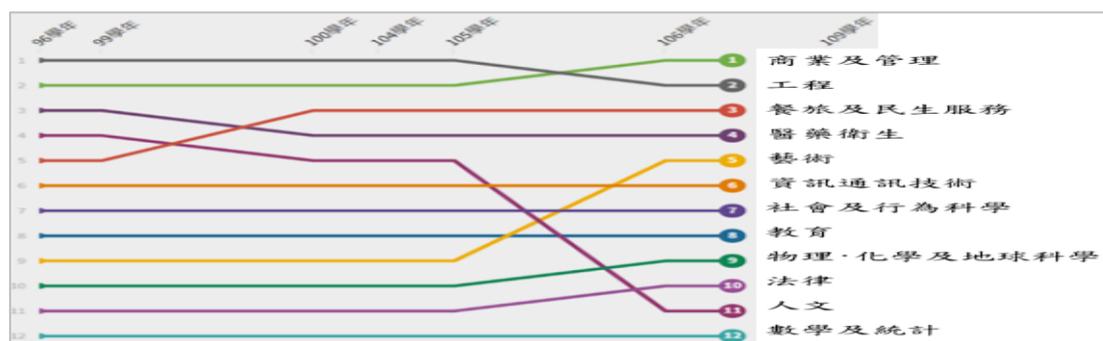


図1 大学における学問領域の人気ランキング
(教育部資料によって作成された Flourish(2021)を参照)

日本語文教育は人文学領域に属する。大学入試における受験生の志望学科の人気ランキングから見れば、12種類ある大学の学問領域のうち、人文系学科は2010年までは第3位だったが、2011年は第5位、2017年は第11位になった³。外国語学科に絞って見た場合、2024/2023年における高校生の人気学科のうち、上位200位以内の

³ 教育部資料によって作成された Flourish(2021)を参照。

学科は政治大学韓国語文学系（54/71）、台湾大学外国語文学系（80/110）、東呉大学日本語文学系（136/137）、台北大学応用外語学系（168/105）、成功大学外国語文学系（171/313）、台湾師範大学英語学系（195/166）、輔仁大学日本語文学系（198/485）である⁴。そして、2025年における高校生の人気学科のうち、東呉大学日本語文学系は93位、輔仁大学日本語文学系は151位、文藻外語大学日本語文系は199位になっている⁵。1963年に始まった戦後の大学における主専攻の日本語学教育は一体、どのような変化があったのか、考えてみよう。

2.1 学科名で見る大学の専門日本語教育

表1 2025年における台湾の日本語主専攻の学科名

成立	学科名	成立	学科名
1963	中國文化大學日本語文學系	1996	銘傳大學應用日語學系
1966	淡江大學日本語文學系	1997	真理大學應用日語學系
1969	輔仁大學日本語文學系	2000	大葉大學應用日語學系
1972	東呉大學日本語文學系	2000	國立屏東大學應用日語學系
1989	國立政治大學日本語文學系	2002	長榮大學應用日語學系
1994	國立臺灣大學日本語文學系	2002	開南大學應用日語學系
1999	靜宜大學日本語文學系	2002	義守大學應用日語學系
2002	世新大學日本語文學系	2003	中華大學應用日語學系
1990	文藻外語大學日本語文系	2009	實踐大學應用日語學系
1992	東海大學日本語言文化學系	2011	玄奘大學應用日語學系
2001	慈濟大學東方語文學系日文組		
2008	國立高雄大學東亞語文學系日語組		
成立	学科名	成立	学科名
1980	國立臺中科技大學應用日語系	1995	景文科技大學應用外語系日文組
1997	大仁科技大學應用日語系	2019	德明財經科技大學應用外語系日文組
1997	南臺科技大學應用日語系	2018	嶺東科技大學應用外語系應用日語組
1997	國立高雄科技大學應用日語系	2019	嘉南藥理大學應用外語系應用日文組
2000	修平科技大學應用日語系		
2003	致理科技大學應用日語系		
2006	高雄餐旅大學應用日語系		
成立	学科名		
1998	建國科技大學應用外語系日語組(英日語雙修)		
2003	元智大學應用外語學系日語組(英日語雙修)		
2003	中山醫學大學應用外國語言學系(英日語雙修)		
1996	臺北城市科技大學應用外語系(英日語雙修)		
2018	大同大學應用外語學系(英日語雙修)		
2002	健行科技大學應用外語系日韓語組		

2025年4月において、台湾の大学における主専攻の日本語学科は日本語文系（1）、日本語文学系（8）、日本語言文化学系（1）、東方

⁴ 大學問（2024）「2024 高中生最愛 百大熱門科系排行榜出爐」による。

⁵ 大學問（2025）「2025 高中生最愛 百大熱門科系排行榜出爐」による。

語文学系日文組 (1)、東亜語文学系日語組 (1)、応用日語系 (7)、
応用日語学系 (9)、応用日文学系 (1)、応用外語系日文組 (2)、応
用外語系応用日語組 (1)、応用外語系応用日文組 (1)、応用外語系
日語組 (英語と日本語のダブルメジャー) (1)、応用外語学系日語組
(英語と日本語のダブルメジャー) (1)、応用外国語学系 (英語と
日本語のダブルメジャー) (1)、応用外語系 (英語と日本語のダブル
メジャー) (1)、応用外語学系 (英語と日本語のダブルメジャー) (1)、
応用外語系日韓語組 (1) のように分類される。全部で 39 学科ある
が、「応用」の文字が付いていないのは 12 学科、「応用」の文字が付
いているのは 27 学科ある。英語と日本語のダブルメジャーは 4 学
科、日本語と韓国語のダブルメジャーは 1 学科ある。

2.2 設置時間で見える大学の主専攻日本語教育 (1963～2024 年)

創立の時間から見れば、台湾の大学における日本語学科の推移は
次のようになる。1945 年の終戦によって、台湾の大学における日本
語教育がほとんど禁止された。1963 年になって初めて戦後の大学主
専攻の日本語学科が「東方語文学系日文組」の名前で中国文化学院
(中国文化大学の前身) に設置された。1966 年に私立淡江大学、1969
年に私立輔仁大学に、1972 年に私立東呉大学に日本語文学系ができ
たが、1972 年の台日国交断絶によって日本語学科設置が止まった。
その後、台湾と日本の経済・貿易のために 1980 年に国立台中商業專
科学校 (台中科技大学の前身) 応用外語科日文組が創立された。し
かし、大学日本語学科が改めてできたのは 9 年後(1989 年)の国立政
治大学日本語文学系である。1990 年に私立文藻外語専科学校で日本
語文科 (日本語文系の前身)、1992 年に東海大学日本語文学系 (2012
年に日本語言文化学系に改名) が成立した。1993 年に和春技術学院
応用外語系日語商務組、東方技術学院応用外語系日文組、高苑科技
大学応用外語系日文組ができ、1994 年国立台湾大学日本語文学系、
南榮技術学院応用日語系、中州技術学院応用外語系日文組、1995 年
に中州技術学院応用外語系日文組、景文科技大学応用外語系日文組、
1996 年に銘傳大学応用日語学系、親民技術学院(亞太創意技術学院

前身)応用外語系日文組、環球技術学院応用外語系日文組、1997年に淡江大学技術学院応用日語学系、大仁科技大学応用外語系日文組、元智大学応用外語学系(英語日本語のダブルメジャー)、呉鳳技術学院応用日語系、南臺科技大学応用日語系、真理大学応用日語学系、国立高雄第一科技大学応用日語系、1998年に建国科技大学応用外語系日語組、1999年に靜宜大学日本語文学系が設置された。

新世紀に入ると、2000年に大葉大学応用日語学系、台湾首府大学応用日語学系、立德管理学院応用日語学系、育達科技大学応用日語系、屏東大学応用日語学系、修平科技大学応用日語系、興國管理学院応用日語学系、2001年に慈濟大学東方語文学系日文組、稻江科技管理学院応用語文学系日文組、2002年に世新大学日本語文学系、長榮大学応用日語学系、健行科技大学応用外語系日韓語組、開南大学応用日語学系、義守大学応用日語学系、2003年に中山医学大学応用外国語文学系、中華大学応用日語学系、致理科技大学応用日語系、真理大学日本語文学系、2004年に臺北城市科技大学応用外語系日語組、2006年に国立高雄餐旅大学応用外語系日語組、2008年に国立高雄大学東亞語文学系日語組、2009年に實踐大学応用日文学系、2011年に玄奘大学応用外語学系日語組、2018年に嶺東科技大学応用外語系応用日語組、2019年に嘉南藥理大学応用外語系応用日文組、徳明財經科技大学応用外語系日文組が創立された。

「東方語文」か「日本語文」か「日本語文化」という名前で成立したのは11学科あるが、学科名に「応用」というマーカーが付いているのは44学科ある。台日国交断絶の1972年の前に創立された4学科はすべて「東方語文」という名前だったが、1985年以降は、「日本語文」と「応用日語」と「応用外語日語組」の名前が並立するようになった。そのうち和春技術学院応用外語系日語商務組、東方技術学院応用外語系日文組、高苑技術学院応用外語系、南榮技術学院応用日語系、中州技術学院応用外語系日文組、親民技術学院応用外語系日文組、環球技術学院応用外語系日文組、淡江大学技術学院応用日語学系、呉鳳技術学院応用日語系、台湾首府大学応用日語

学系、立德管理学院应用日语学系（康寧大学应用外语学系应用日语組の前身）、育達科技大学应用日语系、興國管理学院应用日语学系、明道大学应用日语学系、稻江科技管理学院应用语文学系日文組、真理大学日本語文学系は少子化などの時代の波に飲まれて淘汰された。

1994年に立ち上げられた教育改革運動の結果、大学を多く設置しようというスローガンのもと、日本語学科が多くできたが、少子化の進行によって一部の学科が消えた。

表 2 1963～2024 年における台湾の大学日本語学科の設置(時間順)

成立	学科	成立	学科
1963	中國文化大學日本語文學系	2000	大葉大學應用日語學系
1966	淡江大學日本語文學系	2000	台灣首府大學應用日語學系
1969	輔仁大學日本語文學系	2000	立德管理學院應用日語學系
1972	東吳大學日本語文學系	2000	育達科技大學應用日語系
1980	國立臺中技術學院應用日語系	2000	屏東大學應用日語學系
1989	國立政治大學日本語文學系	2000	修平科技大學應用日語系
1990	文藻外語學院日本語文系	2000	興國管理學院應用日語學系
1992	東海大學日本語言文化學系	2001	明道大學應用日語學系
1993	和春技術學院應用日語系	2001	慈濟大學東方語文學系日文組
1993	東方技術學院應用外語系日文組	2001	稻江科技暨管理學院應用語文學系日文組
1993	高苑科技大學應用外語系日文組	2002	世新大學日本語文學系
1994	國立台灣大學日本語文學系	2002	長榮大學應用日語學系
1994	南榮技術學院應用日語系	2002	健行科技大學應用外語系日韓語組
1995	中州技術學院應用外語系日文組	2002	開南大學應用日語學系
1995	景文科技大學應用外語系日文組	2002	義守大學應用日語學系
1996	銘傳大學應用日語學系	2003	中山醫學大學應用外國語言學系(英日雙修)
1996	臺北城市科技大學應用外語系(英日雙修)	2003	中華大學應用日語學系
1996	親民技術學院應用外語系日文組	2003	致理科技大學應用日語系
1996	環球技術學院應用外語系日文組	2003	真理大學日本語文學系
1997	淡江大學技術學院應用日語學系	2006	國立高雄餐旅大學應用日語系
1997	大仁科技大學應用日語系	2008	國立高雄大學東亞語文學系日語組
1997	元智大學應用外語學系(英日雙修)	2009	實踐大學應用日文學系
1997	吳鳳技術學院應用日語系	2011	玄奘大學應用日語學系
1997	南臺科技大學應用日語系	2018	大同大學應用外語學系(英日雙修)
1997	真理大學應用日語學系	2018	嶺東科技大學應用外語系應用日語組
1997	國立高雄科技大學應用日語系	2019	嘉南藥理大學應用外語系應用日文組
1998	建國科技大學應用外語系(英日雙修)	2019	德明財經科技大學應用外語系日文組
1999	靜宜大學日本語文學系		

注：1. 成立年は日本語教育機関としての開始時間である。成立時において大学でないものも含めている。
2. 赤字は 2025 年 4 月現在ではもう廃止された学科である。

2.3 地理的に見る大学の日本語教育

日本語学科が所属する大学の位置から見た場合、設置当時の時点においては、台北は 10 学科、新北は 4 学科、桃園は 4 学科、新竹は 2 学科、苗栗は 2 学科、台中は 6 学科、彰化は 4 学科、雲林は 1 学科、嘉義は 1 学科、台南は 9 学科、高雄は 9 学科、屏東は 2 学科、花蓮は 1 学科であるが、2025 年 4 月現在では、台北は 10 学科、新北は 3 学科、桃園は 4 学科、新竹は 2 学科、台中は 6 学科、彰化は 2 学科、台南は 3 学科、高雄は 6 学科、屏東は 2 学科、花蓮は 1 学科ある。設置開始の 1963 年から 1992 年までの間に成立した日本語学科は 8 学科あるが、所在地で見れば、台北は 5 学科、台中は 2 学科、高雄は 1 学科あり、地域差が目立つものである。1993～2019 年の間に設置された日本語学科は台北と高雄、台南に集中している。そして、消えた 16 学科のうち、台南は 6 学科、高雄は 3 学科、苗栗、彰化はそれぞれ 2 学科、新北、雲林、嘉義はそれぞれ 1 学科である。2025 年 4 月現在、日本語学科の多くは台北と台中、高雄に集中している。

2.4 日本語学科の消長

戦後、台湾の大学教育は (1) 停滞時期 (1945～1953 年)、(2) 成長時期 (1954～1972 年)、(3) 規制時期 (1973～1984 年)、(4) 開放時期 (1985～1996 年)、(5) 拡張時期 (1997～2014 年)、(6) 縮小時期 (2015 年～) のように大別される⁶。上述した大学の消長は少子化と大学経営に関わっているが、日本語学科もその影響を受けている。消えた日本語学科の類別から見れば、所属が総合大学なのは明道大学応用日語学系、台湾首府大学応用日語学系、真理大学日本語文学系の 3 学科で、所属が科技大学なのは高苑科技大学、育達科技大学、呉鳳科技大学応用日語系の 3 学科で、所属が学院なのは淡江大学技術学院応用日語学系、親民技術学院 (亞太創意学院の前身) 応用外語系日文組、中州技術学院応用外語系日文組、環球技術学院用外語

⁶ 周祝瑛(2008)『台湾教育怎麼辦?』、教育部 (2024)「教改 30 年廣設大學及技專升格如今面臨整併退場之問題及對策」報告を参照。

系日文組、稻江科技管理学院応用語文学系日文組、興國管理学院応用日語学系、南榮技術学院応用日語系、立德管理学院応用日語学系、和春技術学院応用外語系日語商務組、東方技術学院応用外語系日文組の 10 学科である。一方、2018 年に嶺東科技大学応用外語系応用日語組、2019 年に嘉南薬理大学応用外語系応用日文組、徳明財經科技大学応用外語系日文組が新設された。

学科の消長で見れば 1963 年から 2024 年まで創立された主専攻かダブルメジャーの日本語学科は 55 ある。2025 年 4 月現在で既に募集停止、廃止になったのは 16 学科あるが、北部は 3 学科、南部は 13 学科である。日本語教育の類別から見れば、真理大学（台南キャンパス）だけが日本語文学系であり、あとの 15 学科はすべて応用日本語学科である。

学科の消失とは別に、それぞれの学科内部の変化も多く見られる。例えば、東呉大学日本語文学系を例に見てみると、1972 年に「文学院外国語文学系東方語文組」という名前で成立したが、1975 年に「東方語文学系」として独立し、1980 年に文學院の「日語学系」となった。1984 年に組織変更で新設の「外国語文學院」に属する「日本語文学系」に改名した。「日本語文学系」はよく「日本語の文学学科」と誤解されるが、英語名の「Department of Japanese Language and Culture」で分かるように、日本語と日本文化が教育の目標である。組織の内容においては、1972～1975 年は日間の大学部しかなかったが、1976 年に夜間部ができた。そして、1993 年に「日本文化研究所」と合併して、1980 年に成立した「日本文化研究所修士課程」と 1991 年に成立した「日本文化研究所博士課程」が日本語文学系の修士課程と博士課程となった。1997 年に夜間部が 13 時半から授業をする「乙部」と 18 時半から授業をする「進修學士班」に分けられた。1998 年に教授不足という理由で博士課程が募集停止にさせられた。2000 年に「乙部」が日間部に編入され、2001 年に「碩士在職專班」が設けられ、2003 年に博士課程の新入生募集が再開した。しかし、少子化の進行に

より、「碩士在職專班」が 2022 年に、「進修學士班」が 2025 年に新入生募集停止と決められた。

1963～2024 に、日本語学科は 55 学科成立した。学科の運営は社会の情勢、国の言語教育政策、外交関係などと深く関わっているが、2020 年以降、少子化の進行で新入生の欠員がひどくなり、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の蔓延で教育形式、教育活動に大きく変化が起り、言語生成 AI の登場によって「外国語教育は要らない」という説が広まるようになり、高等教育機関の一部は運営難を迎え、日本語教育に励んだ 16 の日本語学科が募集廃止になった。このような教育環境のもと、日本語教育現場は前よりもっと教授法などを工夫すべきだと思われる。

3. 日本語教育活動の今と昔

3.1 教育道具

日本語学科で使われる教育道具と言えば、黒板とチョークは 1960 年代も 2025 年 4 月現在も同じである。但し、ICT 使用においては、60 年前はレコード、カセットブック、ワークマン、スライド、プロジェクターなどが貴重品（贅沢品？）であった。1990 年代になると、カセットテープと共に、ビデオテープが使われるようになり、文字と音声だけではなく、映像を見ながら日本語を勉強することができた。映像の加入によって日本語の言語形式にその言語の背後にある文化がもっと理解されるようになった。そして、コンピューターが導入された後、時間的制限もなく地理的制限もない学習・教育ができるようになった。いつでもどこでも日本語学習・教育の資料や情報を手に入れられる。書く道具もボールペン、ワープロにコンピューターが用いられるようになった。特にコンピューター使用によって、資料の共有と共に、日本語学習者の学習成果を電子ファイルの形で保存することができ、分析したり再利用したりすることもできる。

3.2 カリキュラム

日本語学科のカリキュラムは時代のニーズに応じて変えられる。

東呉大学日本語学科を例に見ると、1979年には日本語の聴解、読解、発話、作文、翻訳の五技能の能力育成が中心であり、それに日本地理、日本歴史、日本文学、日本文化が補助のようになっていた。2000年になると、日本語の五技能、日本文学、日本文化の外に、ビジネス日本語、日本語のICTリテラシー育成の科目も増えた。2025年4月現在、それまでの科目の外に、翻訳を翻訳と通訳に分けて、旅行産業日本語、マスコミ日本語、職場日本語などの科目が設けられた⁷。このように、言語活動における受容、産出、やり取りに必要とされる日本語の言語構造的な能力、社会言語能力、語用能力の育成のためのカリキュラムが出来上がった⁸。

3.3 日本語の学芸的活動

日本語の教室活動のほかに、各大学日本語学科ではいろいろな日本語関係の活動が行われる。例えば、日本語の単語テスト、漢字コンテスト、スピーチコンテスト、朗読コンテスト、作文コンテスト、翻訳コンテスト、演劇大会、カラオケ大会など。近年、日本語のアフレココンテスト、プレゼンテーションコンテスト、絵馬書きコンテスト、俳句コンテストもある。このような学芸的活動は学習者の学習成果のパフォーマンスの場を提供するだけでなく、学習者の学習意欲の向上にも繋がる。また、高校生を対象とする日本語スピーチコンテスト、紙芝居コンテスト、日本語プレゼンテーションコンテストも行われているが、大学が主催する高校生のための日本語コンテストによって高校生の日本語能力のレベルがある程度理解することができ、高校と大学における継続教育への考案の助けになる

⁷ 詳しくは頼錦雀(2022)「東呉大学における日本語文教育の回顧と展望—1972～2021年」(『東呉日語教育學報』55, 台北:東呉大学、pp.54-83)を参照されたい。

⁸ 日本・国際交流基金のJF日本語教育スタンダードの木はコミュニケーション能力とそれによって支えられるコミュニケーション言語活動で作られているが、コミュニケーション能力には語彙、文法、発音、文字、表記などの言語構造的な能力、相手との関係や場面に応じて適切に言語を使う社会言語能力、談話を組み立てる能力、流暢さ、正確さなどの語用能力があり、コミュニケーション言語活動には受容、産出、やり取りがある。なお、受容、産出、やり取りの活動にはそれぞれテキストと方略が必要とされる。

と思われる。

4. 研究活動

4.1 学科紀要の発行

台湾の各日本語学科は理論と実践、教育と研究を大事にしているので、多くは研究紀要を発行している。日本語教師の研究成果の発表の場と学術交流の機会を提供する。殆どは外部審査制度を導入しているので発表者の研究レベルアップに繋ぐことも考えられる。文化大学『中日文化論叢』、淡江大学『淡江日本論叢』、輔仁大学『日本語・日本文学』、東呉大学『東呉日語教育学報』、台湾大学『台大日本語文研究』、政治大学『政大日本研究』、銘傳大学『銘傳日本語教育』を例に見ると、それぞれの紀要名から創立当時の責任者の意図が分かる。淡江大学『淡江日本論叢』、政治大学『政大日本研究』は広範囲の日本研究論文掲載が目的であるが、東呉大学『東呉日語教育学報』、銘傳大学『銘傳日本語教育』の目的は主に日本語教育研究の関係論文を掲載することである。そして、輔仁大学『日本語・日本文学』、台湾大学『台大日本語文研究』は日本語、日本文学の論文を掲載するものである。しかし、論文のテーマを見て分かるように、各大学紀要の掲載論文には日本語学研究、日本文学研究、日本語教育学研究、日本文化研究という「日本語文教育」で重視されている領域のもので、相違性はあまり見られなかった。

4.2 シンポジウムの開催

台湾の各日本語学科は学術交流を図ってシンポジウムを行うのが普通である。2023～2025年には日本語教育、日本文学、日本研究に関するシンポジウムだけではなく、人文社会学、経済、AIなどの科学技術に関するシンポジウムも行われた。時代と共に、従来の日本語学科が重視した日本語学、日本文学、日本語教育学から一歩進んで、イノベーションのために学際的な越境研究への意欲が垣間見られる動向である。なお、主催機関の多くは論文予稿集を発行し、淡江大学村上春樹研究センターは2024年まで、『村上春樹研究叢書』

を 12 輯刊行した。

表 3 大学日本語学科で行われたシンポジウム（例）

時間	主催機関	シンポジウムの主題
2023.03.17	銘傳大学	ポストコロナ時代における日本語教育の革新と実践
2023.04.29	文藻外語大学	応用日本語国際学術会議： ニューノーマル時代における日本語教育と日本研究
2023.05.13	中国文化大学	SDGs の目標からみた日本語教育と日本研究のダイバーシティ
2023.06.17-18	淡江大学	第 12 回村上春樹国際シンポジウム：村上春樹における擬態
2023.09.16	輔仁大学	川端康成没後 50 年シンポジウム—転生する川端康成
2023.10.07	東呉大学	蔡茂豊教授と台湾の日本語教育及び東呉大学外国語文學院 創立 40 周年記念学術シンポジウム
2023.11.17	世新大学	日本学の伝承と革新
2023.12.09	長榮大學	日本言語文藝研究国際学術シンポジウム —加速する ICT と日本学の未来
2024.01.19-20	東呉大学	鍾肇政百歳冥誕記念国際学術シンポジウム
2024.03.15	銘傳大学	日本語教育の課題と動向
2024.04.13	淡江大学	第 7 回 AI と日本語教育国際シンポジウム —言語生成 AI 技術と日本語教育
2024.04.27	淡江大学	日本文学研究国際学術会議—西行学会台湾特別大会
2024.05.24	台中科技大学	VUCA 時代における日本語学習者の未来 —人文社会×経済経営×デジタル技術の視点
2024.05.25	中国文化大学	就職に結びつく日本語教育
2024.10.19	台湾大学	台湾大学日本語文革新及び学科創立 30 周年国際学術シンポジウム
2024.10.26	大葉大学	日本語教育における多様な実践と研究
2024.10.19	政治大學	東アジア言語文化研究の展望と挑戦
2024.11.09	淡江大学	台湾日本語教育研究国際シンポジウム：日本語教育の 60 年 —台湾の日本語学科が達成したものと今後の課題
2024.12.07	長榮大學	日本言語文藝研究国際学術シンポジウム —グローバル化するキャリア教育と日本語教育の新展開
2024.12.14	中国文化大学	台湾日本語文学会国際学術シンポジウム —台湾における日本語文研究の持続可能性
2025.03.14	銘傳大学	学習者中心の自律学習と日本語教育の実践
2025.04.11-12	淡江大学	第 8 回 AI と日本語教育国際シンポジウム (1) 日本語教育 AI サミット 2025 in Taiwan 生成 AI がもたらす日本語教育の未来を考えて (2) 生成 AI 技術と日本語教育のコラボレーション
2025.04.26	淡江大学	日本文知国際シンポジウム及び国際啄木学会台湾大会

大学日本語学科主催のシンポジウムのほかに、各学会の理事長がそれぞれの所属で開催する国際シンポジウムもある。台湾日語教育学会を例に見ると、1993～2024 年は東呉大学（5 回）、淡江大学（7 回）、台湾大学（4 回）、政治大学（4 回）、輔仁大学（5 回）、銘傳大学（2 回）、靜宜大学（4 回）というように、日本語教育研究に関する国際会議が行われた。学会の理事、監事、事務局事務員と共に、各日本語学科の教師とスタッフも献身的に学会運営のために力を尽くしてくれた。各年度の主題を見ると分かるように、学会のシンポ

ジウムでは、国内だけでなく、世界における日本語教育の環境などにも関心が示されている。このような日本語教育のための努力があってこそ、今日までの台湾日本語教育のレベルアップができたのである。

表 4 台湾日語教育学会国際学術シンポジウムの主題

1993 年度	日本語教育 (東呉大学)
1995 年度	国際化時代の日本語教育 (淡江大学)
1997 年度	日本語文学 (輔仁大学)
1998 年度	日本語文学教育 (輔仁大学)
1999 年度	二十一世紀に向けた日本研究 (輔仁大学)
1999 年度	新世紀の日本総合研究 (台湾大学)
2000 年度	卓越した日本研究を求めて (台湾大学)
2001 年度	二十一世紀の日本研究 (台湾大学)
2002 年度	日本研究 (台湾大学)
2003 年度	日本語教育と日本研究 (政治大学)
2004 年度	日本語教育と日本文化研究 (政治大学)
2005 年度	日本語教育と日本文化研究 (政治大学)
2006 年度	日本語教育と日本文化研究 (政治大学)
2007 年度	日本語文と日本語教育 (台湾日本語文学会との共催) (銘傳大学)
2008 年度	台湾の日本語教育研究と実践の現況と展望 (銘傳大学)
2009 年度	台湾日本語教育のジャンルのひろがり求めて (靜宜大学)
2010 年度	台湾・日本・韓国における日本語教育の現状と発展 (靜宜大学)
2011 年度	台湾の日本語教育における各領域の研究課題 (靜宜大学)
2012 年度	台湾の日本語教育における各領域の新しい課題とその可能性 (靜宜大学)
2013 年度	台湾における日本語教育の再発見 (東呉大学)
2014 年度	台湾日本語教育におけるイノベーションの探求 (東呉大学)
2015 年度	学習者主体の日本語教育の再考 (東呉大学)
2016 年度	日本語教育における言語と文化の融合 (東呉大学)
2017 年度	日本語教育のグローバル化 (淡江大学)
2018 年度	アクティブトランジションのための日本語教育を目指して (淡江大学)
2019 年度	AI と日本語教育との対話 (淡江大学)
2020 年度	クリエイティブ・ラーニングを目指す日本語教育 (淡江大学)
2021 年度	with コロナ時代の日本語教育を目指して (輔仁大学)
2022 年度	『世界』に繋がるための日本語・日本語教育 (輔仁大学)
2023 年度	DX 時代における日本語教育の挑戦と課題 (淡江大学)
2024 年度	戦後六十年における台湾の大学日本語教育 (淡江大学)
2025 年度	日本語教育：変えるべきこと・守るべきこと (淡江大学予定)

(括弧は開催大学)

なお、台湾日語教育学会、台湾日本語文学会、政治大学は 2010 年に日本語教育国際研究大会 (ICJLE) を共催したが、台湾日語教育学会は 2026 年に日本語教育国際研究大会を開催する予定になっている。スタッフは各大学日本語学科の教師と事務員、院生、大学生であるので、これも日本語学科の社会奉仕の一環だと言える。

5. 日本語関係学会への貢献

2025年現在、大学と密接な関係にある日本語関係学会は1979年に成立した台湾日本研究学会、1989年に成立した台湾日本語文学会、1993年に成立した台湾日語教育学会、2000年に成立した台湾日本言語文藝研究学会と2002年に成立した台湾応用日語学会である。ここでは筆者と深い関係にある台湾日本語文学会、台湾日語教育学会、台湾応用日語学会の理事会を通して、大学日本語学科の社会奉仕について述べる。学会のメンバーの多くは各大学日本語学科の教師であるが、それぞれの理事、監事と事務局長は全員、日本語教育関係者である。各学会は学術活動によって日本語教育の関係情報や研究成果を共有し、台湾日本語教育のレベルアップを図っているが、その学会活動の多くは理事長の所属校で開催される。大学出身校を見て分かるように、理事、監事は各大学日本語学科の教師が務めるが、理事長は1963-1972年に成立した中国文化大学、淡江大学、輔仁大学、東呉大学の出身者が多い。

表5 台湾日本語文学会歴代理事長

回別	任期期間	理事長(勤務校/台湾の出身校)
第一回	1989-1990	周錦樟 (輔仁大学/輔仁大学)
第二回	1991	周錦樟 (輔仁大学/輔仁大学)
第三回	1992	周錦樟 (輔仁大学/輔仁大学)
第四回	1993-1994	陳明玉 (台灣大学)
第五回	1995	楊承淑 (輔仁大学/輔仁大学)
第六回	1996	楊永良 (交通大学)
第七回	1997	孫寅華 (淡江大学/淡江大学)
第八回	1998-1999	林綺雲 (政治大学)
第九回	2000	陳艷紅 (警察大学/東呉大学)
第十回	2001-2002	陳淑娟 (東呉大学/東呉大学)
第十一回	2003-2004	賴錦雀 (東呉大学/東呉大学)
第十二回	2005-2006	曾秋桂 (淡江大学/東呉大学)
第十三回	2007-2008	曾秋桂 (淡江大学/東呉大学)
第十四回	2009-2010	邱榮金 (高雄第一科技大学/東呉大学)
第十五回	2011-2012	曾秋桂 (淡江大学/東呉大学)
第十六回	2013-2014	曾秋桂 (淡江大学/東呉大学)
第十七回	2015-2016	賴振南 (輔仁大学/輔仁大学)
第十八回	2017-2018	賴振南 (輔仁大学/輔仁大学)
第十九回	2019-2020	王世和 (東呉大学/東呉大学)
第二十回	2021-2022	羅濟立 (東呉大学/東呉大学)
第二十一回	2023-2024	葉淑華 (中國文化大学/東呉大学)
第二十二回	2025-2026	黃英哲 (台中科技大学/東呉大学)

表 6 台湾日語教育学会歴代理事長

回別	任期期間	理事長(勤務校/台湾の出身校)
第一回	1993～1995	蔡茂豐(東吳大学/成功大学)
第二回	1995～1997	林丕雄(淡江大学/淡江大学)
第三回	1997～1999	林水福(輔仁大学/輔仁大学)
第四回	1999～2001	何瑞藤(台湾大学)
第五回	2001～2003	陳明姿(台湾大学/東吳大学)
第六回	2003～2005	傅琪貽(政治大学)
第七回	2005～2007	于乃明(政治大学/東吳大学)
第八回	2007～2009	林長河(銘傳大学/中国文化大学)
第九回	2009～2011	邱若山(靜宜大学/東吳大学)
第十回	2011～2013	邱若山(靜宜大学/東吳大学)
第十一回	2013～2015	賴錦雀(東吳大学/東吳大学)
第十二回	2015～2017	賴錦雀(東吳大学/東吳大学)
第十三回	2017～2019	曾秋桂(淡江大学/東吳大学)
第十四回	2019～2021	曾秋桂(淡江大学/東吳大学)
第十五回	2021～2023	楊錦昌(輔仁大学/輔仁大学)
第十六回	2023～2025	曾秋桂(淡江大学/東吳大学)
第十七回	2025～2027	曾秋桂(淡江大学/東吳大学)

表 7 台湾応用日語学会歴代理事長

回別	任期期間	理事長(勤務校/台湾の出身校)
第一回	2002-2005	張瑞雄(高雄第一科技大学/淡江大学)
第二回	2005-2007	黃招憲(高雄餐旅学院/淡江文理學院)
第三回	2007-2009	黃招憲(高雄餐旅学院/淡江文理學院)
第四回	2009-2011	蔡錦雀(吳鳳科技大学/東吳大学)
第五回	2011-2013	蔡錦雀(吳鳳科技大学/東吳大学)
第六回	2013-2015	葉淑華(高雄第一科技大学/東吳大学)
第七回	2015-2017	蔡錦雀(高雄餐旅大学/東吳大学)
第八回	2017-2019	蔡錦雀(高雄餐旅大学/東吳大学)
第九回	2019-2021	陳志文(高雄大学/輔仁大學)
第十回	2021-2023	董莊敬(文藻外語大学/淡江大学)
第十一回	2023-2025	池田辰彰(玄奘大学)

6. 人材育成の成果

6.1 卒業生の進路

教育部の資料によると、2023 学年度（112 学年度）における大学の学生数は約 109 万 5 千人あるが、そのうち、日本語学科の学生数は二年制専門学校は 110 人、五年制専門学校は 989 人、二年制技術学院は 385 人、四年制技術大学は 3337 人、総合大学学士は 8101 人、修士課程は 477 人、博士課程は 37 人、合計 13436 人ある。そして、2022 年度（111 学年度）の日本語学科卒業生は二年制専門学校は 38 人、五年制専門学校は 85 人（日本語文科 39 人、応用日語科 85 人）124 人、技術大学二年制学院は 151 人（日本語文科 10 人、応用日語科 141 人）ある。四年制技術大学は 788 人（日本語文系 231 人、応用日本語科 557 人）あるが、総合大学は 1929 人（日本語文学系は 1102 人、日本語言文化学系は 90 人、応用日文学系は 83 人、応用日語学系は 646 人、日語進修学士学位学程は 8 人）ある。合計 3030 人である。修士課程の卒業生は修士課程は 74 人（日本語文学系 36 人、日本語言文化学系 3 人、応用日語学系 17 人、応用日語系日本市場・商務策略碩士班 8 人、日本研究碩士学位学程 10 人）あり、博士課程は 6 人（日本語文学系 3 人、日本研究博士學位学程 3 人）ある⁹。

日本語学科卒業生の進路は幅広いものである。応用日本語学科卒業生の進路は翻訳員、通訳員、旅行業界従業員、会社の事務員・秘書、出版業界従業員、航空会社従業員、日本語解説員、日本語教師、外交官などである¹⁰。日本語文学科卒業生の進路について、1 万人ぐらゐの卒業生を社会に送った東呉大学を例に見ると、日本教教師のほか、商業、貿易、レジャーと観光、放送、出版、飲食、物流、翻訳などの業界に務めて社会奉仕をしている¹¹。

⁹ 教育部(2024)『112 學年度大專院校概況統計』による。

¹⁰ TUN 大學網 <https://university.1111.com.tw/company.asp?sid=127&pgtp=4&codeNo=1000680317#gsc.tab=0> による。

¹¹ 東呉大学 2018, 2019, 2020 年における調査結果による。

6.2 優れた卒業生

日本語教師を除いた例を見て分かるように、日本語学科卒業生は公務員、外交官として活躍する外、実業界、マスコミ、観光業界、芸術界など、各業界で働いている¹²。日本語を活用しながらそれぞれの職場で仕事に励む姿がいきいきと見られる。このような人材育成の結果は日本語学科の教育成果の積み重ね、つまり軌跡の一環だと思われるので、ここでその一部の例を示しておく。

表 8 日本語学科卒業生の社会奉仕例（日本語教師を除く）

文化大學	
林長河	銘傳大學國際教育交流處顧問 台灣日語教育學會理事長
藍清漢	亞東關係協會代表
林淇瀟	知名作家。筆名向陽。
鄭婷婷	台灣日本語文學會副理事長
邱榮金	新聞局國際處科長 新聞局庶務科長
黃淑燕	東海大學勞作教育指導長
淡江大學	
蔡明耀	外交官 台灣駐日代表處副處長
徐啓祥	觀光旅遊訓練講師
吳美瑤	國際花卉教授
謝明珠	台北市政府市長室主任
黃偉民	可成應材科技公司總經理
孫寅華	國立廣播教育電台日語教學節目主持人
彭春陽	淡江大學校友服務暨資源發展處執行長
管美燕	臺南芥川龍之介學會會長 臺北城市科技大學日本研究中心主任 長榮大學國際處日本教育中心主任、秘書長、代理學務長
(淡江大學日本語文学系による。https://www.tfjx.tku.edu.tw/japanese/web_page/2178 2024年8月7日閲覧)	
輔仁大學	
林水福	台北駐日經濟文化代表處台北文化中心主任 台灣日語教育學會理事長 國立高雄第一科技大學副校長、外語學院院長
陳明姿	台灣日語教育學會理事長
傅瑩瑩	美國晶華集團 (Ying Enterprises Inc.) 總裁兼執行長 多元文化傳播集團副總裁兼地產開發部負責人
賴振南	輔仁大學副校長、國際教育長 台灣日本語文學會理事長
楊錦昌	台灣日語教育學會理事長
顏綉丹	國際崇她嘉義社創社社員，司庫，副社長
黃瑋苑	日商三井住友銀行台北分行業務經理
郭宜亭	喬鈞國際有限公司董事長
蔡鎮仰	雄獅旅行社業務領隊，佳能企業經理
戚國福	財團法人臺灣觀光協會東北亞組組長
(輔仁大學物語學院日本語文学系(2015「系史」)による。 http://docs.jp.fju.edu.tw/pdf/history.pdf 2024年8月7日閲覧)	
東吳大學	
趙梨驊	JTB 台灣總經理
于乃明	政治大學教務長 台灣日語教育學會理事長

¹² 台湾の日本語教育機関の台湾籍教師の多くは台湾の各大学日本語学科出身なのでここでは日本語教師の資料を省くことにする。

陳淑娟 台灣日本語文學會理事長
 郭玲玲 奇美博物館基金會董事長 奇美博物館館長
 陳炳崑 世新大學人文社會學院院長 經濟部國際貿易局專員
 趙順文 開南大學文學院院長
 蘇啟誠 台北駐日大阪經濟文化辦事處處長 台北駐那霸辦事處處長
 林健雄 三商外食事業部副總經理 三商多媒體經理 中華職棒三商虎隊副領隊
 王淑卿 中央廣播電台日語組導播
 邱若山 楊逵文教協會理事長 台灣現代詩人協會理事長
 賴錦雀 東吳大學外國語文學院院長 台灣日本語文學會理事長
 徐興慶 台灣日語教育學會理事長 台灣應用日語學會副理事長
 葉淑華 中國文化大學校長 台灣大學日本研究中心創立者/主任
 曾秋桂 中國文化大學國際暨外語學院院長 高雄大學外語學院院長
 陳文龍 台灣應用日語學會理事長 台灣日本語文學會理事長
 謝文龍 淡江大學村上春樹研究中心創立者/主任 台灣日本語文學會理事長
 王世和 台灣日語教育學會理事長
 羅濟立 台灣伊藤忠丸紅鋼鐵貿易公司高雄支店營業部長
 吳怡柔 凱衛資訊(股)公司副董事長 新光金控副總經理兼董事會秘書
 謝明智 新光人壽副總經理兼董事會秘書、元富證券副總經理。
 杜旻穎 東吳大學副校長 東吳大學外國語文學院院長
 陳明奎 台灣日本語文學會理事長
 陳竹揚 東吳大學外國語文學院院長 台灣日本語文學會理事長
 陳勇志 經濟部 Inves Taiwan 協理
 徐瑋駿 Apple Japan 合同会社 (Apple 京都)
 林宛臻 國立台灣文學館典藏組研究助理
 李承浩 中視新聞部國際中心主管
 李詹儀 TOYOTS TSUSHO(TAIWAN)經營企劃室副理
 巫文嘉 優群科技公司資材部經理
 劉雅芸 臺灣電視公司擔任新聞編譯
 周家琦 日文律師
 徐大為 有夢音樂公司負責人
 李牧豐 STC 商事(JTB 台灣集團)課長
 朱家華 日本樂天集團數據產品經理
 倪瑞興 台灣積體電路公司工程師
 (大學 open day 2023 学系影片—東吳大學日本語文学系 <https://web-ch.scu.edu.tw/index.php/Japanese/media/10784> 参照。2024年8月7日閲覧)

台灣大學

李琴峰 第 165 回芥川賞受賞(2021年)

7. 日本語教育の危機

戦後台湾における大学日本語教育 60 年の軌跡においては、次のような危機が見られた。

7.1 台日国交断絶

1963 年から 3 年ごとに私立大学に日本語学科が設置されたが、1972 年の台日国交断絶によってストップするようになった。それで「日本語を話すな」のスローガンが見られ、戦後の大学における主

専攻日本語教育の発展も制限された。

7.2 高校との継続教育

1990年代以降、台湾では日本語が人気ある英語以外の外国語で、高校時代で習う学習者は少なくない。2023学年度の資料によると、応用日本語学程、応用日本語科の主専攻日本語学習者は3381人（2022年度卒業生は1236人）¹³あり、普通高校で第二外国語としての日本語学習者は上学期は24634人、下学期は25110人ある¹⁴。それはとてもいいことではあるが、日本語既修者が大学に入ると、教育現場では問題になることが考えられる。既修者と初心者が同一教室で日本語を習うので問題が少なくない。大学側ではクラス編成においてもカリキュラム、教材選定、教室活動においてもいろいろ工夫されているが、未だに最善案は見られないと思われる。

7.3 少子化

少子化の進行による各段階の教育機関における学生数はこれからも減少する傾向にある。少子化の進行によって近年、大学入試の欠員率が低くないが、日本語学科も例外ではない。2024年の新入生欠員においては、外国語学群は芸術学群、管理学群、大衆伝播学群に次いで4位であるが、日本語学類は一番欠員が多い¹⁵。学科の募集停止、大学の廃校に新入生の欠員などの要因によって日本語学習者の減少はこれからも続くと思われる。

¹³ 教育部（2024）「學校基本統計資訊」による。

¹⁴ 教育部、高級中等學校第二外語學科中心、第二外語教育計畫資料による。

¹⁵ 大學入學考試分發委員會(2024)「113年大學分發入學15日放榜錄取率94.62%」による。

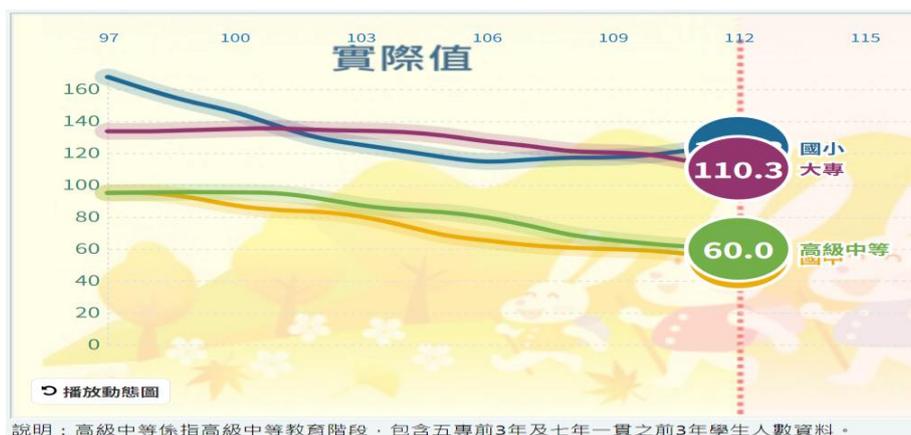


図 2 2023 年における大学学生数
(教育部統計簡訊動態視覺化平臺による)

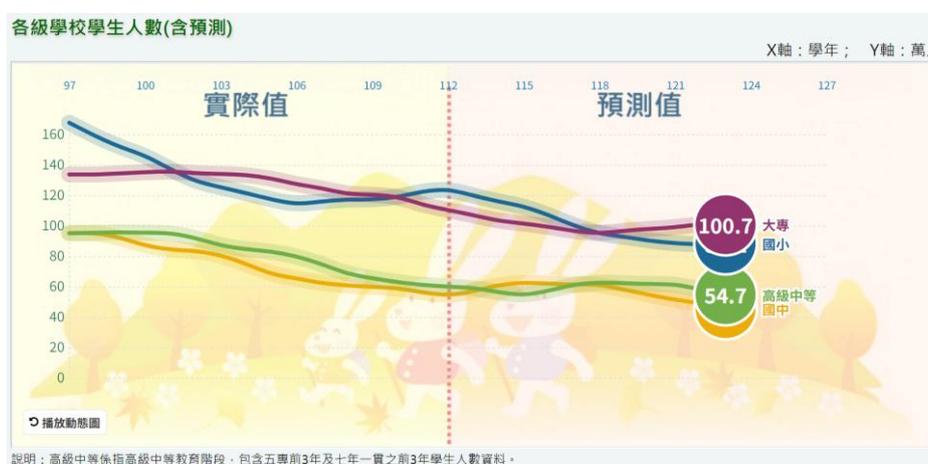


図 3 2023 年以降の大学学生数の予測
(教育部統計簡訊動態視覺化平臺による)

表 9 2024 年大学入試における外国語学群の欠員

学類	欠員数	学類における比率 (%)	学群	欠員数	学群における比率 (%)
日語文学類	124	20.91	外語学群	251	10.75
東方語文学類	11	9.17			
英語文学類	109	8.63			
欧語文学類	7	7			

(大學入學考試分發委員會(2024)「113年大學分發入學15日放榜錄取率94.62%」による)

7.4 地域差

大学入学試験受験生の選校基準は趣味、大学の地域性、教育成果だと思われる。日本語学科の成立においても消滅においても地域性が関わっている。戦後、最初に日本語学科が設置されたのは台北市と台北県（新北市の前身）であるが、募集停止になった多くの日本語学科は南部にある。そして、2024年度において、大都会の大学の

多くに欠員がないのは、地域性がその大きな要因だと言われている¹⁶。このような地域差は地域によって日本語人材不足の結果をもたらす恐れがある。

7.5 「2030年バイリンガル国家」言語政策

台湾では2001年に小学校5・6年生が対象である英語教育が始められた。2002年5月31日に「挑戦 2008：國家發展重點計畫」(2008への挑戦：國家發展重点計画)が公布され、英語が第二官話と決められた。それによって、2005年に小学校3年生から英語の授業が行われている。そして、台湾の価値を国際社会に発信できるようになることが非常に重要だ、ということで、2018年に「2030 雙語國家政策」(2030年バイリンガル国家政策)が決定された¹⁷。そのバイリンガルとは華語と英語である。それによって、一部の応用外語科日本語組が無くなったのを見ても分かるように、英語と日本語を二者択一の場合、日本語が捨てられるのである。

7.6 AIの登場

言語生成AIが登場したあと、時間的にも、地理的にも、経済的にも多くのメリットがあるので、外国語教育不要論、外国語学科不要論が高まるようになっている。確かに、文化を重視しない言語形式中心の日本語教育の場合では、対面授業よりもAIなどのICTを利用したほうが便利であろう。AIの登場は日本語教育機関の存続に関わるかもしれない。

8. おわりに

日本語教育の責任は日本語人材育成にあるが、今後の大学日本語教育に求められることは科学技術の利活用、日本語ベースの学際的教育、本土化と国際化の両立の教育内容、学際的教育の強化、越境教育と継続教育の心構えなどである。

¹⁶ 大學入學考試分發委員會(2024)新聞原稿による。

¹⁷ 中廣新聞網2020年6月21日によると、蔡英文総統は「「2030 雙語國家計畫」, 目標是台灣的年輕世代, 都能清楚用外語跟國際講述台灣是什麼樣的國家。」と述べた。その「外国語」とは第二官話にしようとする英語のことである。

教育部 2013 年の「人才培育白書」では、我が国の人材には「全球移動力」、「就職力」、「創新力」、「越境力」、「情報力」、「公民力」が必要だと唱え、2016 年の「提升青年學生全球移動力計畫」では「溝通力」、「適應力」、「專業力」、「實踐力」の重要性が提出された。

アメリカでは、学際的な教育研究活動を大学や研究所において効果的に推進する上で、どのような戦略や施策が必要となるのか解明しようとする研究が 2000 年以降に進んできている。当該領域に関する研究は学際的な研究活動を実施する研究者の属性や動機に着目した研究、学際的な研究プロジェクトや研究拠点の運営に着目した研究、大学全体の学際性推進に向けた戦略や取り組みに着目した研究がある¹⁸。日本語学科の立場から見れば、日本語文教育・研究本位の立場から、視野を広げて初級日本語教育の段階から少しずつ学際的研究の視点を学習者に紹介してもいいのではないかと思われる。例えば、汎用日本語のほかに、ビジネス日本語は多くの日本語学科のカリキュラムに設けられているが、ビジネス関係の専門日本語の語彙、文型を導入するとともに、商業関係の小説かドラマに触れさせたりするように工夫すれば、課外授業の自律学習が期待されるし、大学卒業後の継続学習にも繋がると思われる。

これからの大学日本語教育は日本語の言語構造的な能力、社会言語能力、語用能力という基本的な能力育成のもと、日本語学研究と日本語教育研究の橋渡し、日本語学研究と日本文化研究の橋渡しなどの越境の心構えを念頭にした日本語教育をするべきである。よりよい教育成果のために、日本語教育現場における教育内容の充実化、教育達成目標・指導・評価の一体化、継続教育への配慮が求められ、そして、台湾の日本語教師における日本語力・中国語力、日本文化・台湾文化への理解力、日本語教育学の専門能力、教材の選定力・編纂力、自己反省力などが求められる¹⁹。

¹⁸ 福井 他 (2021)「学際的な教育研究に対する大学の戦略—日米 英の戦略文書の比較分析—」による。

¹⁹ 頼錦雀(2006)「台湾における日本語教育学の体系構築試案」では地域別日本語教育という理念の下、台湾における日本語教育は日本語学、日本文化と共に、

「立足台湾，理解日本，放眼世界」—台湾にしながら日本理解を通じてグローバル化するというのは筆者の日本語教育の理念である。今までの台湾の大学日本語文教育は日本語学習、日本文化理解が主な仕事だったが、異文化交流には自文化も不可欠な要素であるので、台湾事情の日本語表現能力育成も大事である。大学の日本語教育現場では、台湾文化を日本語でどのように表現していいのか、もっと力を入れるべきである。

そして、DX 時代における大学の日本語教育は、ただ日本語文の知識や技能を詰め込むのではなく、科学技術を生かす学習者の自律学習意識の向上、自分のニーズに合わせた日本語活動に必要な日本語能力の深化が重要である。もちろん、その前に日本語教師自身の教育能力の向上が求められる。言語生成 AI が多く出されている現在、情報の不正確性、人間味の喪失、思考力の低下、学習の醍醐味喪失、知的所有権の論争などのデメリッドを減らしながら、ICT などの科学技術を活用して学習者の日本語運用能力を高めるように教師は工夫すべきである。また、越境日本語教育はもう逆戻りはできないと思われるが、国際言語の英語の必要性がますます高まる台湾社会では、社会に求められる日本語能力の維持や向上を如何にすべきか、今後もっと考えなければならない課題である。

要するに、イノベーションを念頭に、言語生成 AI を利活用し、時代の変化に合わせた新しい課題への挑戦をする心構えが肝心である。ただし、日本語教育には不易と流行がある。いくら世代が変化し、新しい科学技術が登場しても、学生の日本語能力、日本社会理解への理解能力による交流能力の向上に対する探究は日本語教育現場の人々の共通の目標である。その際、教育現場の環境構築、設備の充実が求められる外に、一番重要なのは教師の教育力である。英語の国語化、少子化のなか、日本語教育は肩身が狭くなっている感じも

学習者の教育環境—台湾の要素を取り入れるべき考えが明示されている。

するが、台湾と日本は地理的にも歴史的にも文化的にも切れない関係にある国同士なので、台湾にとっては日本語が不可欠な外国語である²⁰。

2024年8月、東呉大学日本語文学系は日本外務大臣表彰を受賞した。これは東呉大学だけではなく、台湾の大学日本語教育機関を代表した受賞だと思われる。台湾の各大学日本語教育学科の関係者各位のご指導、ご協力がなければ、この栄光をいただくことができなかったのである。長年、台湾日本語教育にご協力くださった日本台湾交流協会の多大なご支援を心から感謝申し上げたい。国交がないにもかかわらず、各日本語教育機関への書籍寄贈、留学生奨学金寄付、日本語教育研究活動協力、日本語教師日本研修、日本語パートナーズ派遣、日本語教育関係国際シンポジウム開催支援など、いろいろな面からお力になっていただいたことによって、今日の台湾の日本語教育の発展があったと思われる。

過日の日本統治時代における台湾歴史の研究のためにも今日の台日国際交流のためにも日本語は不可欠な外国語であるので、今後とも大学日本語教育の責任は重大である。また、「過去から学び、未来を知る」と言われるように、日本語教育の史的研究は大事である。今まで、蔡茂豊(1980, 2003)²¹、何瑞籐(1999)²²、徐興慶(1999)²³、頼錦雀(2017, 2018, 2019)のような研究成果が見られるが、²⁴、もっと多くの関係者による記述が俟たれるものである。

²⁰ 台湾では2018年に「2030年のバイリンガル国家政策開発青写真」が発表された。2030年に国語と英語のバイリンガル国家になるように国を挙げて英語教育に力が入れられている。

²¹ 蔡茂豊(2003)『中国人に対する日本語教育の史的研究』東京：筑波大学博士論文、蔡茂豊(2003)『台湾日本語教育の史的研究(下)』台北：大新書局など。

²² 何瑞籐(1999)「台湾における日本語教育の回顧と未来への展望」『台湾日本語教育論文集』台北：台湾日語教育學會、pp.1-37

²³ 徐興慶(1999)「台湾における日本語教育の現状と問題点」『外国語教育』25号、天理大学外国語教育センター、pp.11-29

²⁴ 頼錦雀(2017)「台湾における日本語教育の歩みと今日的課題」『銘傳日本語教育』第20期、桃園：銘傳大学、pp.39-68。頼錦雀(2018)「台湾における日本語教育の回顧と展望」『早稲田日本語教育学』24、東京：早稲田大学、pp.59-70。頼錦雀(2022)「東呉大学における日本語文教育の回顧と展望—1972～2021年」『東呉日語教育學報』55、台北：東呉大学、pp.54-83

〈付記〉

本論文は 2024 年 11 月 9 日に行われた台湾日語教育学会国際シンポジウムで口頭発表したものを修正したものである。学会参加者及び匿名の査読者から有益なコメントをいただいた。心より深謝申し上げたい。

日本語参考文献

- 蔡茂豊（2003）『台湾日本語教育の史的研究（下）』台北：大新書局
- 原良憲（2020）「デジタルトランスフォーメーション時代における価値の創造」『日本教育学会研究発表要項』79 巻、pp.320-321
- 福井文威・新見有紀子・林隆之（2019）「学際的な教育研究に対する大学の戦略－日米 英の戦略文書の比較分析－」『大学経営政策研究』11、東京：東京大学、pp.1-18
- 頼錦雀(2006)「台湾における日本語教育学の体系構築試案」『台湾日本語教育論文集』10 号、台北：台湾日語教育學會、pp.91-117
- 日本国際交流基金（2010）「JF 日本語教育スタンダードの木」https://www.jpf.go.jp/pdf/2016_jfs_tree.pdf(2024 年 8 月 10 日閲覧)

中国語参考文献

- 周祝瑛（2008）『台灣教育怎麼半?』台北：心理出版
- 教育部（2013）『教育部人才培育白皮書』
- 教育部（2016）「提升青年學生全球移動力計畫」
- 教育部(2021)「歷學年學生熱愛學門排行榜」
<https://flo.uri.sh/visualisation/6977290/embed>(2021 年 9 月 8 日閲覧)
- 教育部（2024）『學校基本統計資訊』台北：教育部
<https://depart.moe.edu.tw/ed4500/News.aspx?n=5A930C32CC6C3818&sms=91B3AAE8C6388B96>（2024 年 7 月 20 日閲覧）
- 教育部（2024）『「教改 30 年廣設大學及技專升格如今面臨整併退場之問題及對策」書面報告』

<https://ppg.ly.gov.tw/ppg/SittingAttachment/download/2024041099/42876001100184207002.pdf> (2024年7月30日閱覽)

教育部統計簡訊動態視覺化平臺

<https://stats.moe.gov.tw/statedu/animation.html>(2024年8月3日閱覽)

教育部技術型高級中等學校外語群科中心

<https://vtedu.k12ea.gov.tw/nss/s/FL/305>(2024年8月8日閱覽)

高級中等學校第二外語教育推廣計畫

<https://shs.k12ea.gov.tw/site/2ndflcenter/category?root=10395&cid=17810>(2024年8月8日最終閱覽)

大學入學考試分發委員會(2024)新聞稿「113年大學分發入學15日放榜錄取率94.62%」https://www2.uac.edu.tw/113data/113_result_data_v2.pdf (2024年8月15日閱覽)

大學問(2024)「2024高中生最愛 百大熱門科系排行榜出爐」
<https://www.unews.com.tw/News/Info/7187> (2024年8月15日閱覽)

大學問(2025)「2025高中生最愛百大熱門科系排行榜出爐」
<https://www.unews.com.tw/News/Info/8160> (2025年2月7日閱覽)

台灣日語教育學會 HP <https://www.taiwanjapanese.url.tw/>
(2024年8月10日最終閱覽)

台灣應用日語學會 <https://www.taja.org.tw/>(2024年8月10日閱覽)

中廣新聞網(2020)「10年達標！蔡總統：2030雙語國家 年輕世代能用外語向國際介紹台灣」中廣新聞網2020年6月21日、
<https://tw.news.yahoo.com/>による。(2024年8月15日閱覽)